

# 総務産業委員会報告書

平成27年6月11日

備前市議会議長 田 口 健 作 殿

委員長 田 原 隆 雄

平成27年6月11日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

## 記

案 件	審査結果	少数意見
議案第81号 備前市営駐車場条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決	なし
報告第10号 専決処分（専決第14号 平成26年度備前市浄化槽整備事業特別会計補正予算（第1号））の承認を求めることについて	承認	なし
報告第13号 専決処分（専決第17号 平成26年度備前市簡易水道事業特別会計補正予算（第3号））の承認を求めることについて	承認	なし
報告第14号 専決処分（専決第18号 平成26年度備前市駐車場事業特別会計補正予算（第5号））の承認を求めることについて	承認	なし
報告第16号 専決処分（専決第20号 平成26年度備前市企業用地造成事業特別会計補正予算（第3号））の承認を求めることについて	承認	なし

### <所管事務調査>

- 鹿久居島環境公園化構想について

### <報告事項>

- 地方創生について（人口減対策監）



《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
議案第81号の審査	2
報告第10号の審査	5
報告第13号の審査	5
報告第14号の審査	6
報告第16号の審査	7
報告事項	12
所管事務調査	19
閉会	20



## 総務産業委員会記録

招集日時	平成27年6月11日（木）	午前9時30分		
開議・閉議	午前9時30分	開会 ～	午後4時33分	閉会
場所・形態	委員会室A・B	会期中(第3回定例会)の開催		
出席委員	委員長	田原隆雄	副委員長	川崎輝通
	委員	山本恒道		尾川直行
		掛谷 繁		西上徳一
		山本 成		
欠席委員		なし		
遅参委員		なし		
早退委員		なし		
列席者等	議長	田口健作		
	委員外議員	なし		
	紹介議員	なし		
	参考人	なし		
説明員	まちづくり部長	高橋昌弘	人口減対策監	中島和久
	まち産業課長	丸尾勇司	まち営業課長	梶藤 勲
	まち創生課長	坂本基道	まち整備課長	平田惣己治
	上下水道課長	藤森 亨		
	日生総合支所長	星尾靖行	吉永総合支所長	山台智子
傍聴者	議員	守井秀龍	橋本逸夫	立川 茂
		石原和人	森本洋子	星野和也
	報道関係	山陽新聞		
	一般傍聴	7名		
審査記録	次のとおり			

## 午前9時30分 開会

○田原委員長 おはようございます。

ただいまの出席委員は7名全員です。定足数に達しておりますので、これから総務産業委員会を開会いたします。

本日は、まちづくり部の関係の審査を行いたいと思います。

委員会の進め方については、レジュメにあるように、5つの議案の審査を行い、議案審査後一旦休憩し、休憩中に予算決算審査委員会の当分科会を開催し、分科会閉会后、当委員会を再開して報告事項、所管事務調査を行う予定としていますが、これでもよろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、そのようにさせていただいて、審査に入りますが、議運で話がされているようですが、議会のフェイスブックに委員会風景を載せるということで、写真を適時写させていただきたいということですので、その点も御了解をお願いしたいと思います。

それでは、議案審査に入ります。

\*\*\*\*\* 議案第81号の審査 \*\*\*\*\*

議案第81号備前市営駐車場条例の一部を改正する条例の制定についての審査を行います。

資料説明からお願いします。

○平田まち整備課長 今回の条例改正は、頭島に新しい駐車場2カ所を設置するものです。

お手元の資料をごらんいただきたいと思います。

場所ですが、頭島の西側、グラウンドゴルフ場の東隣にAとBという形で2カ所駐車場を新設するものです。

A駐車場について、駐車場部分の面積が570平米、これは駐車場の有効面積です。駐車台数が普通車で23台。それから、B駐車場の有効面積が1,100平米、駐車台数が普通車で16台、うち身障者用が2台、大型観光バス用に大型車用の区画が2台という区画割りになっています。いずれも料金精算については事前精算ということで考えており、駐車場の区画に事前精算機、券売機を設置し、利用者の方に事前に精算をしていただくという形を考えています。車で駐車場に入ってこられたら、すぐ精算機に料金を入れていただきます。そうしますと駐車券が発行されますので、それを持って車の中のフロントガラスの後ろなどよく見えるところへ置いていただいて、それで料金精算は終了と。用事が終われば帰っていただくという形で考えています。

現在、2カ所とも整備途中です。Bのほうは舗装等工事がほとんど完了しており、あと券売機の設置だけということになっています。今の予定ですと、早ければ7月中、遅くとも8月中には供用開始をしたいと考えているところです。Aのほうについては、舗装とかフェンス等の工事が現在未整備ですので、これと券売機とあわせてこれから発注をするように今準備をしているところで、大体10月ぐらいをめどに完了したいと考えているところです。

○田原委員長 それでは、委員の皆さんからの質疑をどうぞ。

○川崎副委員長 参考資料の駐車場の図面を見ていただきたいと思います。

議会報告が頭島でありまして、そのついでにこのB駐車場を利用させていただきました。舗装して線引きをもうやられていましたが、何でこうなのかなという疑問が出てきました。

入り口が1カ所しかなく、大型バスを2台一番奥の詰まったところへ線引きしています。そのことを考えると、これは逆ではないかと。入ったすぐのところの大型の2台を置くようにすれば、今現在の大型の2車両が、手前の普通車のところであれば、両面に置くようなことも可能ではないかと。もう少し駐車場の線引きを工夫すれば、普通車がもう少し多く置けると同時に、大型車両が奥まったところで出入りしていれば、それでなくても今ごみ収集車が毎月のように事故をやっているような問題があるので、初めて来る観光バスなどが普通車と接触するという可能性は奥になればなるほど確率が高いということを考えると、入り口からすぐに大型車両2台ぐらいが置けるようにし、あとは斜め線なり直角であろうが何だろうが、普通車がより多く置けるようにすべきではないかというのが、地元3人の議員が現場に車を置いた率直なる感想です。

変更していただくほうがいいと思いますが、なぜこうなったのか。批判するわけではないですが、どうも現場と合わないのではないかということのを率直に感じました。

**○平田まち整備課長** 御指摘のとおり、ぱっと見た感じで大型をとめるがゆえに非常に無駄なスペースができていうか、これだけの広さがありながら乗用車も16台程度しかとめられないということが無駄な感じもしますが、実際この区画を決めるに当たり、設計自体はコンサルへ発注していましたので、専門家の知恵もあり、大型バスをどういう形で引き込むか、バスの軌跡などもいろいろと入れていろんな形で検討した結果、これが一番効率的で有効だろうということで決まったという経緯があります。

副委員長が御指摘のように、入り口あたりへつければというのも確かに一つの方法と思いますが、恐らくこれはバスが入って出ていくときに転回をすることがこの場内だけでは難しくなってくるのではないかと思います。頭で入ってきてバックで出るときには、道路上へバックして出ていくといったことも出て、安全確保の面でも問題があるだろうと。やはり場内で転回をすることであれば、どうしても大型バスを奥へ引き込まざるを得ないということの検討の中で今のよう形になったものということですので、改めてこちらもう一度再精査はしてみますが、見直すのはちょっと難しいと思います。

**○川崎副委員長** この図面を見ても入る道がそんなに広くないです。ただ、この道路は行きどまりの道路で、使用頻度は非常に低いということであれば、頭から入っても一番奥側、道路際が一番奥側か一番手前、どちらにしろバックするときにはこの道を使って向きを変更するというのを考えれば、相当普通車が置けるのではないかというのが率直な現場での感じですが。

もう少し、業者に頼むだけでなく、この程度のことはやはり自分らでするぐらいのことをやらないとだめじゃないですか。実際に行って車を置いてみてください。いかに大型のために真ん中あたりが無駄なスペース、何でこんなスペースを置いているのかと。そして、手前に普通車を全部置いたら出口は非常に狭いでしょう。どう考えても大きい物は手前に置いて、小さい物は奥へ詰めるというのが、駐車場の本来のあるべき姿ではないかと思うので、再検討していただきたい

と思います。

これ以上時間をとりたくありません。私なりの意見は終わってから言わせていただきます。よろしくをお願いします。

**○掛谷委員** A駐車場が570平米で23台の普通車、B駐車場は大型バスがあり、障害者スペースがあるといえども、例えば境界線にずらっと並べれば、そっちのほうがたくさん入ると。A駐車場のようなやり方をすれば、境界線にひっつけて並べる方法もあるし、そしたらど真ん中のスペースも相当あくので、そこにもまた置けるのではないかという意味合いで、バスの位置はここでいいのかもう一回検討してもらい、B駐車場のもっと有効な配置をやはり考えたほうがいいのかと思う。何かもったいないという感じがするので、再検討されたらどうかと思う。

**○平田まち整備課長** 再精査はしてみたいと思います。ただ、実際にもうラインも引いて、工事も完了しているので、ここですぐ見直しということになると、工事のやり直し等も出てくるし、できれば当面はこれで少し様子を見させていただけたらと思うので、よろしくをお願いします。

**○川崎副委員長** 委員長を交代します。

[委員長交代]

**○田原委員長** 金銭に絡むことですから、1台幾らで有料にするわけでしょ。なら、今線を引いているだけですから、反省は反省としてされて、やはり効率的なレイアウトにするべきだと思う。コンサル任せでなく、失敗は失敗として素直に認めて考えるべきだと思うが。

**○平田まち整備課長** 失敗との御指摘ですが、こちらとすれば、最初に申し上げたように、コンサルに委託したと言いながら、当然こちらでもコンサルの何案かをよく精査し、吟味した上で、効率的という部分もあるわけですが、安全の確保ということを踏まえた上で考えてこれがベストだろうということを決めているものですので、見方によってはいろいろ方法というのはあるかもわかりませんが、何とかこれで御理解をいただきたいと思います。

**○田原委員長** 理解できません。じゃあ何件か案をつくったのなら、コンサルから出た案、あなたたちがつくった案を示してください。示されますか。やはり失敗は失敗として認め、特に、区画数によっては入る金額がこれから変わってくるわけですから。ただでさえ駐車場が少ないという頭島の現況の中で、1台でも多くここへ駐車できるような工夫をするべきではないかという指摘を川崎委員、掛谷委員がされているわけですから、やはり素直に検討されたらどうですか。

**○川崎副委員長** 部長、どうですか。現場へ行って率直に感じますよ。

**○高橋まちづくり部長** 駐車場の考え方で言いますと、さきほど担当が言った形になると思います。大型バスの駐車枠にしても13メートルの3メートル50という規格がございます。それとあわせて軌跡、そういう形での設計が基本になります。今正副委員長が言われる分については、臨機に状況を見て、そういうことにとらわれずに少しでも台数が、それでなくても少ない中で確保できるようにという御提案と受けとめています。そうした中で、ぱっと見たときに非常に空白の部分が多いく無駄な感じがします。私もそういう感じはちょっと見たときはします。

今後、ある程度そういう規格に外れるというか、ある程度臨機に対応しながら、少しでも台数

がふえるような形で現場をもう一遍精査しながら、可能な限り台数確保という形で前向きに検討する必要があると思いますので、今後調査をしていくということで検討したいと思います。

○田原委員長 前向きに、検討ありがとうございます。前向きという役所言葉が言葉だけにならないように。例えばこれだけの細い道で一気に入れないわけです。それから、入っても出るときにバックしないといけないので、一旦頭島寄りに突っ込んでバックでストレートに入れば、2台でも3台でも置けるわけです。そしたら、道路側からのツールであとは全部掛谷委員の言うように周り全部駐車場にできるわけで、ぜひ言葉だけの前向きでないようにお願いをしておきます。

○川崎副委員長 委員長かわります。

〔委員長交代〕

○田原委員長 委員長として復帰しました。

議案についてほかになれば、質疑を終わってよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を終結します。

これより議案第81号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議案第81号は原案のとおり可決されました。

以上で議案第81号の審査を終了します。

\*\*\*\*\* 報告第10号の審査 \*\*\*\*\*

次に、報告第10号専決処分（専決第14号平成26年度備前市浄化槽整備事業特別会計補正予算（第1号））の承認を求めることについてを議題とします。

質疑がありましたら。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、質疑を終結してよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を終結します。

これより報告第10号を採決します。

本案は承認することに異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、報告第10号は承認されました。

以上で報告第10号の審査を終了します。

\*\*\*\*\* 報告第13号の審査 \*\*\*\*\*

次、報告第13号専決処分（専決第17号平成26年度備前市簡易水道事業特別会計補正予算（第3号））の承認を求めることについてを議題とします。

質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、質疑を終結してよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を終結します。

これより報告第13号を採決します。

本案は承認することに異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、報告第13号は承認されました。

以上で報告第13号の審査を終了します。

\*\*\*\*\* 報告第14号の審査 \*\*\*\*\*

次は、報告第14号専決処分（専決第18号平成26年度備前市駐車場事業特別会計補正予算（第5号））の承認を求めることについてを議題とします。

質疑がありましたらどうぞ。

○掛谷委員 歳出、15節工事請負費が減額され、18節備品購入費に振りかえられています。前払い式精算機設置ということで、これは間違ったのか費目がどうだったのか、その辺が疑問なので、説明をお願いします。

○平田まち整備課長 これは予算の節の組み替えということで、先ほど頭島の駐車場の部分で御説明したような事前精算機を吉永の駅前にも配置を計画しており、この予算はその吉永の事前精算機に係る費用です。

当初は、精算機の設置工事ということで考えていたもので、工事請負費として予算をいただいたが、内容を改めて精査したところ、機械を設置するとなれば当然基礎をつくったり電気の配線があったりと工事を伴うわけですが、その費用よりも機械そのものの備品費がかなりウエートが高いため、工事請負費ではなく備品購入費で対応するのが適切ということで、見直しということで組み替えをさせていただいたものです。

○掛谷委員 よくわかりました。ただ、そういうことはある程度事前にわかっていたのではないかと思いますし、これを一つの。今の頭島の件もあるし、こういう案件が前にもあればわかるはずでしょうが、こういった件は初めてですか。

○平田まち整備課長 駐車場に券売機を設置するというのは今回初めてです。御指摘のとおり、しっかり精査しておけば事前からわかっていたことだと言われれば、まさにそのとおりかと思えますので、そういった点については我々も今後はよく気をつけたいと思います。申しわけございません。

○田原委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、質疑を終結してよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を終結します。

これより報告第14号を採決いたします。

本案は承認することに異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、報告第14号は承認されました。

以上で報告第14号の審査を終了します。

\*\*\*\*\* 報告第16号の審査 \*\*\*\*\*

次、報告第16号専決処分（専決第20号平成26年度備前市企業用地造成事業特別会計補正予算（第3号））の承認を求めることについてを議題といたします。

質疑がありましたらどうぞ。

○尾川委員 この間質疑がありましたが、2つの土地がこの間、うまい話にならなかったというふうに聞きましたが、これから先はどのように考えていますか、この2筆について。

○梶藤まち営業課長 2筆については、今の段階では団地の中に含めていませんが、今後また状況等変わり購入等の話になれば購入等も考えていこうと考えています。

○掛谷委員 何か質疑では、買いたいけど今はお断りと、売りませんというような交渉結果のように感じました。備前市としては企業誘致の関係で進めていきたいと思っていたと思いますが、売りませんというのに対し、じゃあ何年後には売りましょうということもないと思います。ですから、本当のところは欲しいけど、今はめどが立っていませんというのが本音だと思いますが、そういうところはどうですか。今、尾川委員が言われたことに対してちょっと違うのではないかとと思いますが。

○梶藤まち営業課長 掛谷委員がおっしゃられるように、当然交渉の上で買えなかった部分ということなので、すぐにまた交渉を再開して買えるという保証はないわけですが、企業等が決まり、その決まった段階でいろいろ状況が変わることも考えられます。そうなった段階で、再度交渉が必要であれば行い、購入がもしできれば購入していきたいと考えています。

○掛谷委員 確かにお金のかかる問題です、売買ですから。要するに聞きたいことは1点、その地主の方が場合によれば相談にも乗るということが残されているのかどうか。いやもう一切売らないという強い意志なのか、条件によっては、また交渉が残されているのかいないのかということを知りたい。

○梶藤まち営業課長 地主の条件では、隣接した土地の購入した先の状況によっては交渉の余地はあると。購入した先の土地の利用状況によっては交渉の余地があるというふうに私どもは解釈しています。

○山本（恒）委員 今次々あっちやこっち買い歩いているけど、今アベノミクスでちょっと上へ上へ行っているように目先だけ見えるけど、これ買収したらまた1メートルほど両壁をコンクリでするのか何かして、しゅんせつなんかはささん言うたりして嚴重なことばかり言うて、1年も2年も遅りようたら、またじいっと持って30年ほどかかるから、早くもう仮契約でもして売っ

て、出来高払いか知らんけど、そねえにせなんだら持ったままじいっと4億も、あっちにも2億ほどあります、こっちにもありますいうて。こねんに一とろばかり、香登へばかりせずに、そりゃあ伊里や日生も今しているけど、するんなら、せなんだら。今言ようのは結局高かったら売っちゃう言よんじゃろ。今は売れません、隣の単価で言うたりしようということ。今の単価で維持せなんだらいけんよ、ほんまに。そこらどんなかな。

**○梶藤まち営業課長** まず、塩漬けにするようなことをしない形で企業との契約を進めるようにということの質問については、職員等で企業訪問等、東京、大阪事務所を利用しての企業の訪問等を活用して、誘致できるよう努力しています。

あと、単価については、単価が上がるのを待っているのではないかというようなこともあります。おっしゃられるように周りを今売買していますので、変わらない単価での販売ということでもうちも交渉はしていきたいと考えています。

**○山本（恒）委員** もう絶対役所は買うたらそろそろするから、企業はそれをまた次に子を産まさにゃあいけんから、全然違うからね。備前市はそれでなくても金がないのに、今ちょっと景気がええからいうて、とつとことつとこ買収して、それで買収したやつをすぐ売るのはええよ。安く売るのはええけど、じいっと持っとなって買う人がいなくなったらもう塩漬けになってしまう、そこを私は思います。そやけど、売る人を探しようと言うたって、買う人がおったからじゃねん、水が出るやら何やら言うたりして、許可は出しとるような話をちょっとしようたけど、そこらどんなかなあ。その業者の人は。

**○梶藤まち営業課長** 交渉をする上で、土地の紹介をさせてもらっています。買う企業側もその土地が自分の要望に合うような土地かどうかというのをやはり調査しないと進められないということで、その中での調査というのは、それはしてくださいという形で許可をしています。

業者自体、まだ決まっていないので、決まってからやっているということではないので。まだ契約の締結も、仮契約も何もできていませんので、まだ業者は決まっています。

**○山本（恒）委員** その土質調査は、普通コンサルがしょんじゃなしに、そこを買おうと思っっている企業の人があるところへ来て試験掘りみたいなことはしょんでしょ。

**○梶藤まち営業課長** 水の関係の調査を企業がしており、土質調査自体は市で行っています。

**○尾川委員** 今の関連で、会社も具体的に決まっているような話を聞いていますが、私だけかもわかりませんが、そういう理解をしている。そのために調査して水質というか、どの程度の井戸水が出てくるのかということまで。ただ、業者の名前は言えませんがという解釈をしていましたが、担当者によって何か違うような気がします。その辺もう少し詳しく状況を、担当がかわっているのを説明してもらいたい。

**○梶藤まち営業課長** 業者についてはまだ決定していません。私どもから業者が決定したという情報は流してはしないと、私は聞いています。

企業誘致は、最後の最後、業者と締結するまで決まらないという話を、私もこちらに変わってから日が浅いですが、そういう話を担当から聞いていますので、業者についてはまだ決まってい

ないという話しかできません。

**○尾川委員** ある程度何社か候補の会社があり、名前までは別として、かなり可能性が高いと、できたら入ってくれるぐらいに解釈している、私は。ほかの委員がどう思っているのか知しませんが、私はそのように聞いている。議員の中で、やはりこういう企業団地にどうか企業誘致について公開して入札するとかというふうな、公募すべきではないかという意見がありました。だけど、執行部側はそうじゃない、ある程度こうこうで、個人的にこねで要するにセールスして来ていただくというふうな説明を受けたような気がします。業者が決まっているけれども決まっていない表現をしているのか、公開できないのかというその温度差がある。こっちはええように、安易に考えとる。要するに公表はできないけど、会社はある程度特定されてきているという、それで用地が遊んでしまうようなことはないという理解をしている。その辺をもう一遍確認で、担当がかわっているから大分表現も違ってくると思いますが。

**○梶藤まち営業課長** 企業誘致に関しては非常にデリケートな形になるのというのを私も2カ月いて感じています。企業の状況も刻一刻変わっています。やはり確信を持てるという話をするのは調印してからというように思っていますので、委員にはなかなか確定の話ができないのが非常に申しわけないですが、今は決まっていないというふうなお話しかできないのが実情です。

**○田原委員長** 部長、補足。

**○高橋まちづくり部長** 担当課長の答弁のとおりです。前向きに、積極的に、そこへ進出したいという業者はいます。そうした中で、先ほど言いました最後の最後まで、契約するまでわからないと、これが実際の話ですが、前向きに企業進出したいという数社の方とある程度情報を共有しながら進めているというのも事実です。

なぜ進まないかといいますと、先ほどの山本委員の質問にも関連しますが、やはりこの用地単価と工事価格をある程度合算して買取価格を決めていくという中で、工事価格がまだ不確定な要素があるので、思い切った具体的な交渉に至っていないというのが現実です。そうした中で、先ほど周りの擁壁とかありましたが、基本的には我々は暫定的なある程度のことだけはきっちりして、あとは企業のニーズに応えた地盤を整備していくという形で、ある程度の粗の段階でそういうまとまった交渉を、決まった交渉を進めていきたいということで、よく言うスピード感を持って、企業のニーズに即した形での対応をしたいということで考えています。

わかったような、わかっていないような話をしましたが、全く白紙ではない、ある程度ここへ来てくれそうな企業というのは、そういうものを決めて動いているということで理解していただきたいと思います。その辺ある程度、皆さんにお話ができる状況になりましたら、委員のほうにも一番に御報告したいと思います。

**○川崎副委員長** 煮え切らない話がずっと、この企業誘致は公表できない中で続いてきたわけですが、これまでの経過を見ると、2社がほとんど進出する予定で単価とか工事単価額についてやっているということで前向きに行っているという感じを受けていましたが、ここに来て飛び地が買えないとなると、たしかこれまでの説明では飛び地だが、駐車場だったか何だか忘れましたが

それは入る企業が欲しいと。ただ危惧しているのは、まさかこの買えないところが本社が移転して来る場所ではないのかどうか、その辺図面がないので何とも言えないが、1点それ確認。買えないというところが本社移転の場所でないことを願いますが、どうなのか。

もう一点、進出しようという企業は、私は数社でなく、2社ということの流れからしてほぼ8割、9割方確定だという認識で今まで審査してきたと思います。そういう中で、飛び地が欲しいのは2社のうち1社だと思いますが、飛び地がなければ進出しませんという流れにはなっていないわけでしょうね。

○梶藤まち営業課長 飛び地と言われるのが、今予算のほうで減額したところということでお答えさせていただきます。

その部分については、本社が移転するところではない場所です。今後、駐車場等にできればという部分になると思います。

○川崎副委員長 買えないということで進出する企業が断念するというようなことにはならないでしょうか。

○梶藤まち営業課長 飛び地が買えないということで交渉に悪影響が出るとか、進出企業がないとかという話にはならない部分の飛び地です。

○川崎副委員長 ということは、私は数社でなく2社だと聞いています、今の流れでは。その2社は確実に単価、工事費さえ詰めれば、間違いなく進出していただけるという方向性は変わっていないですね。それだけ確認します。

○梶藤まち営業課長 何度も申し上げて申しわけないですが、確実だという御返事はここではできないので、そうなってほしいという形での交渉はしています。

○川崎副委員長 確率的にはほとんど8割、9割方決まっているような方向で、協定締結するまで名前だけが公表できないと。五分五分だとか、四分六だという話になると、この委託料1,784万円の調査委託料を専決補正として急いでやる必然性が少し揺らいでいると。そう簡単に認めていいのか。契約書、協定書の調印ができる企業のためにこういう調査委託料を取るなら、それは必要だと思うけど、まさに山本委員が言ったように、塩漬けになるようでしたら、調査委託してちゃんとお膳立てはできたけど、やはりだめだという可能性が強いんだったら、急いで予算をとる必要はないのではないかと不安が出てきます。その点どうですか、部長。

○高橋まちづくり部長 用地交渉も終えて、買収もしています。そういう中で、ぜひとも承認していただき、一刻も早く造成をして、方向性を決めて、調印の締結という形に持っていきたいと思いますので、ぜひともそういうことで承認のほうよろしくお願ひしたいと思います。

○掛谷委員 結局のところは、交渉事なので、いつそれが解決できるのかというのはなかなかめどがつかないと思いますが、執行部としては、ここまではもう決着をつけたいというのはあると思います。もちろん相手がありますが、めどは結局つけているわけですか。それがないと、ずるずるいくのではないかと。そのめどはいつごろですか。

○高橋まちづくり部長 今開発の申請書の作成中です。私の一つのめどというのは、ある程度工

事費が決まり、発注金額といえますか、詳細設計ができ上がった時点で、ある程度単価的なものは具体的なもので進める交渉が可能だと思います。でないと、例えば工事費、単価によって取得面積も会社の都合によって変わってくることも十分あり得ますので、開発申請ができ上がって工事費が確定したものが、発注段階のものができ上がったと、そういう時点がそういうことを進めていく一つの大きな目安になると思っていますし、そういう形で進めたいということで、大体この10月、11月ぐらいにはその造成工事等も発注をしたいということで進めていますので、その時点から具体的な交渉は可能になるというように考えています。

○掛谷委員 造成が始まっていくのが10月、11月で、年度内にはできるということになると、業者との契約は年度内にできるのか、来年度の初めか、早くてそういう流れですか。

○高橋まちづくり部長 そういう予定で今後進めていきたいと考えています。

○尾川委員 その設計委託料が上がっています。今はどういう状況ですか、専決しているわけですが。

○梶藤まち営業課長 専決分の委託料については、変更プラス発注が終了しています。

○尾川委員 業者はどこですか。

○梶藤まち営業課長 株式会社ウエスコです。

○山本（恒）委員 わしはとにかくできるだけ早くしてもらいたい。日本に企業はたくさんあるからこねえな4ヘクや5ヘクですが、企業に来てもらって何ぼのもんですから。そりゃ来てもらわにゃ就職がなくて皆若い子は出ていって、残る人は年寄りばかりになりよんじゃから、備前市は早いのが得意なわけだから、少々かき散らしてでも売ってもらうようにしなければいけないと思います。

○梶藤まち営業課長 早く企業用地が売れるように努めてまいりたいと思います。

○田原委員長 土砂を岡山市から無料でもらうというのは変わってないですな。

○梶藤まち営業課長 土砂については、まだ特定な場所というのは決めていませんが、岡山市についても一部搬入していただいています。まだほかの場所についても検討しています。

○田原委員長 それによってまた単価が変わるということ。十分あるんじゃないかな。  
ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑を終結してよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を終結します。

これより報告第16号を採決いたします。

本案は承認することに異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって報告第16号は承認されました。

ここで一言申し上げますが、総務部門のときに3月末専決はできるだけしないように、新たな

ものについては補正でちゃんと議案に上げるようにということで、前向きに検討しますという答弁があったので、まちづくり部もその辺よく考えて、努めて専決処分のないようにお願いしておきたいと思います。

それでは、総務産業委員会を休憩いたします。

午前 10時20分 休憩

午後 3時50分 再開

○田原委員長 総務産業委員会を再開いたします。

別途近々に改めて総務産業委員会を開くべきという提案があります。できればそのようにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

そういう中で、報告事項、所管事務、ぜひ本日中という議題があればお願いするということで進めたいと思います。

\*\*\*\*\* 報告事項 \*\*\*\*\*

報告事項からどうぞ。

○中島人口減対策監 地方創生について御報告します。

委員皆さんも御存じのように少子化が進んでいます。2014年に日本創成会議が行った、消滅危機にある市区町村が全国で896もあるという報告をお聞きしたことがあると思います。岡山県では、県内27市町村のうち14市町村が2040年には20歳から39歳までの、いわゆる若年女性の減少が50%以上となり、将来消滅の危機のおそれがあるとしており、本市もその14市町村に入っています。

国は、急激な人口減少への取り組みとして、昨年12月にまち・ひと・しごと創生長期ビジョン並びにまち・ひと・しごと創生総合戦略を発表し、人口減少への取り組みをスタートさせています。この中で、人口減少は社会経済に与える影響が大きいとし、それに対する取り組みは一刻の猶予も許されないとしており、各自治体において早い段階で人口減少への取り組みを行うよう求めています。

これを受け、備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向け、商工会議所や耐火物協会などの産業分野、国、県などの行政分野、市と包括連携している6大学、市内の金融機関、市労協、民間のマスコミ、自治会連合会などから構成した備前市まち・ひと・しごと創生懇談会を5月27日に開催したところです。

懇談会からは、企業誘致をもっと進めてもらいたい、全国的に人口減少の中、各市町の取り合いとなるのではないかと、どうしたら定住してくれるのかを考えることが大事、若い人をメンバーに入れてみてはといった御意見を頂戴しています。そうしたことから、子育てをしている人や若い人、高校生などの御意見を今後お聞きしていく予定としています。

次に、第1回の懇談会で資料としてお示した、備前市まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン素案、そしてスケジュール案について、御説明させていただきます。

お手元に配付しています、長期人口ビジョンについて御説明させていただきます。

3ページをお開きください。

本市の人口現状について、総人口、高齢化率、15歳未満の人口比率の推移を示しています。総人口は、2014年には2005年から5,326人減少し、3万6,031人となり、高齢化率は35.7%と増加、15歳未満の人口比率は10.2%と減少しています。

4ページをお開きください。

上段のグラフは先ほどの数値をグラフ化したものです。(2)5歳階級別の人口は1970年から2010年までの推移です。

5ページをお開きください。

5ページのグラフは階級別人口指数で、1970年を1とした場合、ゼロ歳から19歳は0.377、20歳から39歳は0.452、40歳から59歳までは0.788となっており、特にゼロ歳から39歳の若い年代層の減少が著しくなっています。

6ページをお開きください。

(3)本市の出生、死亡の自然動態ですが、死亡者数が出生者数を上回っており、また出生者数は毎年減少傾向にあります。グラフは、表をグラフ化したものです。(ア)出産時の母親の年齢ですが、2009年4月から2012年3月までと、2012年4月から2015年3月までの本市の母親の出産年齢を調べて見ると、第1子、第2子、第3子の母親の出産年齢にはほとんど差が見られません。全国の第1子の母親の出産年齢30.4歳と比べ、本市の第1子の出産年齢は全国平均よりも若くなっています。

7ページのグラフは表をグラフ化したもので、上のグラフと下のグラフを見てみると、第2子、第3子の子供の数が減少しているのがわかると思います。

8ページをお開きください。

(イ)未婚率ですが、上から2番目の表の未婚率の推移を見ると、1980年は29.1%だったものが、2010年には55.8%と大きく増加しています。年齢区分ごとに見ると、男性では30歳から39歳、女性では25歳から29歳までの未婚率が高くなっています。

9ページは、20歳から39歳までの未婚率をグラフ化したものです。

10ページをお開きください。

一番上の表は全国平均との比較で、本市の未婚率は全国平均をいずれも上回っています。

(4)社会動態ですが、転出が転入を上回り社会減となっており、2013年は特別な事情により大きくなっていますが、2014年の社会減が小さくなっています。

11ページ、(ア)年齢別転入者数と転出者数ですが、11ページから12ページのグラフは、2011年、2012年、2013年の年齢別転入者数と転出者数をグラフであらわしたもので、丸で囲んだ20歳から39歳までの年齢層の差が大きくなっています。

12ページの下側のグラフは瀬戸内市の年齢別転入転出者数のグラフですが、瀬戸内市は二重丸で囲んだところの30歳代から40歳代は転入が転出を上回っています。

13ページ、(イ) 転入者の状況ですが、20歳代の転入者が最も多く、20歳代、30歳代とその子の世代を合わせると、転入者全体の65.8%を占めています。(ウ) 転出者の状況ですが、2013年に転出した人のうち岡山県の転出割合が約6割となっており、そのうち5市町への転出が約9割を占めています。

14ページをお開きください。

先ほどの県内転出者の6割のうち、5市町で約9割を占めていることから、5市町並びに赤穂市との比較を行いました。出生率は、赤磐市、瀬戸内市、和気町より上回っています。婚姻件数は、赤磐市、瀬戸内市を上回っていますが、その他の市と比べると少なくなっています。離婚件数は、赤穂市、和気町を除き少なくなっています。

15ページの住宅の新築戸数を見ると、近隣市の3分の1から2分の1と大きく下回っています。このグラフは近隣市町の新築住宅件数の比較をしており、本市は下から2番目の黒い実線です。

16ページをお開きください。

雇用についてですが、(1) 昼間人口比率について、岡山市に次いで多くの人が備前市に働きに来ています。(2) 事業所数は、近隣市と比べ多くなっています。(3) 雇用状況ですが、従業地による就業者数が就業者数を上回っているのは備前市だけであり、雇用は十分あると言える状況にあります。アンケート調査などで雇用の場が少ないという意見は、ホワイトカラーとして働ける場が少なく、選択肢が少ない状況にあると言えます。

17ページをごらんください。

過去のアンケート調査の主な結果です。(1) 転出者のアンケート調査では、仕事と住居を転出した人が約7割近くに上っています。(2) 市職員のアンケート調査では、市外へ転出した理由として、市外の人との結婚、住居の問題、交通の便を上げています。(3) 人口減対策定住推進に係る職員のアンケート調査では、入庁時には市内在住であったが、その後市外へ移り住んだ職員にその理由を尋ねたところ、ほぼ全て宅地、住宅がきっかけとなっています。また、教育問題を上げる人もいました。(4) 市民意識調査では、20代、30代では買い物の不便さ、公共交通の不便さ、魅力的な職場がない、余暇が楽しめないなどとなっています。(5) 子育て支援に関するアンケート調査では、満足している人の割合が高くなっており、本市の子育て支援は他の自治体の見本となるもので、もっとPRすべきとの意見も頂戴しています。また、市内に産科や小児科の入院できる病院をつくっていただきたいとの希望もあり、子育てに対する不安材料の一つとなっています。

18ページをお開きください。

人口減少の理由の一つに教育の問題があり、子供の就学時期に合わせてよりよい環境の自治体へ転出する傾向があることから、教育からの視点について記述をしています。(1) 年少人口の45年間の推移と45年後の推計をあらわしたのがこの表です。この表を見ると、45年前の1970年の年少人口は1万2,309人であったものが、45年後の2060年には1,001

人まで大きく減少するという推計が出ています。これを15で割って見ると、1970年の各年の平均は約820人、2060年には約66人となる計算になります。

(2) 学校規模の適正化については、こうした年少人口が減少していく中で児童・生徒に適正規模の学校を提供する必要があるとしています。表は、市内の保育園、幼稚園の園児数で、合計が309人、小学校では1,545人となっていますが、各学年ベースでは300人を下回っています。

19ページの(3)教育の質ですが、現在全ての小・中学校へのタブレットの配布やまなび塾などに取り組んでいますが、さらなる教育水準の向上を目指す必要があるとしています。

以上のことから、本市の人口減少の要因をまとめてみました。(1)未婚率の増加ということで、20歳から39歳までの未婚率は1980年では29.1%であったものが、2010年では55.8%と過半数を超えており、未婚者の増加に歯どめをかける必要があります。(2)子育て世代の転出が顕著ということで、人口減少の主要因として、子育て世代、20歳から39歳の転出が顕著となっており、この世代の転出を抑制する必要があります。(3)近隣市町への転出ですが、首都圏への転出はわずか7%、県内への転出が約6割、そのうち9割が近隣市町への転出で占めており、いわゆる増田論文にいう首都圏への転出は本市には当てはまらないのではないかと考えています。(4)近隣市町との相違ですが、近隣市町と比べ雇用があつて、合計特殊出生率、婚姻率は高く、乳幼児の子育て支援が充実していると評価されても、子育て世代の流出がとまらない事態となっています。原因の一つに赤磐市や瀬戸内市は多くの分譲地があり、特に瀬戸内市は住宅造成や住宅建築時の規制が少なく、建てやすい環境にあります。このことはより多くの住宅メーカーが参入することができる環境にあり、他市町からの転入を加速させています。

20ページをお開きください。

(5)人口動態と住宅ということで、20歳から39歳までの人口動態と住宅着工件数には相関関係があり、主にこの世代の転出は優良な宅地などを求めて転出する傾向が強くなっています。(6)雇用ですが、事業所数が他市町より多くあり雇用はあるが、ホワイトカラーとして働ける事業所は少ないことから、若者のニーズに合っていません。(7)教育ですが、教育環境の課題などにより、小学校に上がる年代で他市町へ転出していく傾向があります。

次に、将来人口の推計についてですが、目標値を設定し、それに基づき将来人口のシミュレーションを行っています。(1)目標値の設定についてですが、本市では合計特殊出生率の目標値を2020年までに1.70、2050年までに2.08とし、社会動態をできるだけ早い時期、2020年にプラス・マイナス・ゼロにするという目標を設定し、これらをもとに4つのパターンでシミュレーションを行っています。

21ページは、4つのパターンの将来人口のシミュレーションです。パターン①は、合計特殊出生率、社会動態がそのまま推移した場合。パターン②は、合計特殊出生率を国の基準、2020年1.6、2040年2.07とし、社会動態がそのまま推移した場合。パターン③は、

合計特殊出生率を市の目標値を2020年に1.7、2050年に2.08とし、社会動態がそのまま推移した場合。パターン④は、合計特殊出生率をパターン③とし、社会動態を2020年に転入転出プラス・マイナス・ゼロとした場合で、それぞれのパターンで将来人口を推計してみました。

下の表をごらんください。

このままでいくと本市の人口は、パターン①のとおり2060年には約1万5,000人程度となることが推計されています。また、合計特殊出生率を国の基準や本市の基準としても、パターン②、③のとおり約1万8,000人程度となることが推計されています。しかしながら、社会動態を2020年からプラス・マイナス・ゼロにしますと、パターン④のとおり2060年まで減少は続きますが、約2万3,000人程度となることが推計されています。

22ページをごらんください。

各パターンをグラフ化したものです。一番下の黒い実線がパターン①です。一番上がパターン④です。中ほどのちょっと重なっている線が②、③です。明らかに社会動態が人口減少に大きくかかわっていることがわかると思います。

23ページのグラフはゼロ歳から14歳までの年少人口の推計です。グラフの一番上の二重線は、パターン④のケースでほとんど人口の減少は見られません。その他のパターンでは人口の減少が続いています。

24ページをお開きください。

上のグラフは15歳から64歳までの人口推計です。一番上の二重線がパターン④の場合です。減少傾向が緩やかとなっています。下のグラフは、65歳以上の人口推計です。2020年を過ぎたころから高齢者人口は減少に転じています。

25ページをごらんください。

今までの人口分析や将来人口のシミュレーションにより、本市の長期人口ビジョンについて、以下の2つの視点を重点に考えています。(ア) 合計特殊出生率を2020年までに1.70、2050年までに2.08まで上昇させる。さらに、未婚率を2020年までに5%減少させることを目指すとし、少子化対策と未婚率を減少させる取り組みを行うことで出生者数の増加を目指すとしています。(イ) 2020年を目途に社会動態プラス・マイナス・ゼロを目指すとし、若い世代、特に20歳から39歳を中心に施策に取り組むことで人口の安定化を目指すとしています。

(2) 備前市の長期人口ビジョンとして、パターン④に基づく推計では、2060年には約2万3,000人程度の人口となることが推計されていますが、以上の2つの点を踏まえて未婚率を減少させる取り組み、若者がホワイトカラーとして働ける企業の誘致や定住施策などのさまざまな取り組みを行うことで、人口3万人程度の維持を目指すとしています。

次に、スケジュール案ですが、ごらんの予定で進めていきたいと考えており、最終的には秋口までに総合戦略の策定をしていきたいと考えています。

○田原委員長 質疑は。

○尾川委員 いいレポートをありがとうございます。さすがという思いです。

新聞に人口ビジョンは7月末と、これは国に出すわけですか。

○中島人口減対策監 できましたら、国とか県へ報告してくださいという指導をいただいています。

○尾川委員 これが骨子ですか。これにまだ何かいろいろ装飾するわけですか。

○中島人口減対策監 これは、素案です。懇談会等、皆さんから意見をお聞きし、いろいろと訂正、修正を加えていこうと考えています。まだ初めての素案ですので、これから肉づけしていく必要もあると思っています。

○尾川委員 結論めいた25ページの考え方というのが一番のポイントかと。ことし国勢調査もあるし、どういう動きを想像されているのか、人口問題研究所のデータが5年でどういふ変化をするのかなど。国勢調査がどの程度正確なものができるかどうかわかりませんが、そのあたりはどのように、想定とそんなに違わないというふうに、現実5年たっているから想定と違うかもしれないですが、どのくらいを思われていますか。

○中島人口減対策監 今の想定は過去の国勢調査をもとにしています。ことし10月に国勢調査があり、その結果が出るのが1年か2年先ぐらいになると思います。実際にこの計画、人口ビジョンに基づき、このあと総合戦略の策定という作業に移って行きますが、人口ビジョンについては、そういった流れの中で方向性を考えていただくというのも一つありますが、絶えずこの計画云々については、その時々に見直しをしていくということもありますので、これができたからそのままいきますという考えでなく、絶えずその時々状況に応じて見直しをし、人口減の対策に取り組んでいくというふうに考えています。

○尾川委員 一番は、最終の8の備前市の長期人口ビジョンとその考え方ということについて、提案ですけど、せっかく6大学があり、その先生もいろいろ学説でいろんなスタンスがあるから誰がどうこう言うわけではないが一遍聞いて、やはり備前市の現状と、それからこういう数値の想定と一応アドバイスもらったものをまた教えてもらえたらと。若い人とか、子育ての人からの意見を求めるという話もありましたが、そのあたり専門的な立場から、よそにないような人口ビジョンのまとめ、レポートをつくって、ぜひ生かせるような、ただ数値を並べただけではない、今後のかじ取りに使えるような、市長が予算でいろいろ考えて、先々行っているいろんな形を考えていかれて議員がようついで行かれないところがあるかもわかりませんが、その辺のアドバイスをぜひ受けてもらい、いい計画をつくってもらおうと。具体的な案はいろいろありますが、きょうはやめておきますけど、その点だけ指摘させていただきます。何か意見あったら。

○中島人口減対策監 その点については、懇談会のメンバーの中に6大学の委員さん皆さん入っていますので、前回5月27日にこれと同じものをお示ししています。今後また懇談会を何回か開催させていただきますので、御意見等、そのときに頂戴するようにお願いしています。

○尾川委員 ただ集まって建前的な会議ではなく、対策監が先生に直接会い、事前に話を聞いて

て、直接情報をとるというふうにぜひやってほしいと思います。

○中島人口減対策監 ありがとうございます。

○掛谷委員 8番の(2)が最後の締めになっています。若い方の未婚率を、これは人の問題なので、人の自由というか、そういう問題は非常に難しいと思います。ただ、ホワイトカラー、いわゆる第3次産業、コールセンターであるとかICTというところは、それは十分できると思います。このどちらもやらなければいけません、ホワイトカラーというところはしっかりと本当にターゲットを絞ってやっていただきたい。未婚率をとというのは本当に難しい。ほっておけばいい問題ではないですが、こちら辺には物すごいエネルギーを費やして実現をしていただきたいということを私は強く要望しておきます。何かあればお願いします。

○中島人口減対策監 本当に御意見ありがとうございます。

本当に結婚といますのは、やはり個人の考え方に委ねるところが非常に多くあります。いろいろお聞きすると、出会いの場が少ないとか、昔とかなり環境が違っていますので、昔は仲人さんですか、近所のおせっかいさんがおられ、いろいろお世話をされたりして結婚したといった方も多くおられます。そういったところも踏まえながら、今後そういう出会いの場とか、そういうおせっかいをしてくださるようなコーディネーター役なんかも活用して、できるだけ多くの出会いを持って結婚を進めていくような場も必要ではないかと思っています。

それから、ホワイトカラーというのは本当にそのとおりで、備前市は昔から製造業の町といった形で発展してきました。近年大学へ進学して、もし大学から戻ってきて備前市へ就職するということになる、市役所とか、農協とか、銀行とか、やはりそういったところに職種が限られてしまうことが多くあります。そういった中で、少しでもホワイトカラーという言い方がいいか悪いかわかりませんが、そういった方が就職できるような場所も必要ということで、今後そういったことも戦略の中に盛り込んでやっていきたいと思っています。ありがとうございました。

○川崎副委員長 統計的に分析というのは、過去はデータさえ集めればすぐできることです。10年も15年も前から当たり前の原因はつかんでいるわけです。結局は、これだけ分析しながら、それに見合う政策を特に旧日生町と備前市はやっていません。吉永は、宅地でいえば十分なまだ宅地があり、それなりに頑張って企業なんかを呼んでいますから、人口減少率というのは少ないと思います。

この統計で一番勉強になったのは、未婚率の五十数%ですか、過半数を超えていると。その原因を本気で分析したら、若い男女が結ばれないわけがないです。できない経済的条件があるわけです。特に男性が一家を支えるために十分な賃金保障がない。二十数年間賃金がおくれているようなデータを堂々と書いてください。今の政権の中で、そういうことが続いてきたことを客観的なデータとして出さないでだめですよ。

そういう中でどうするのかといえば、自治体が賃金を上げると言っても無理です。国が最低賃金を上げる以外に、この未婚率が下がるわけがないです。としたら、何をやるのかといえば、ずっと浮かぶのは、市内で若い男女が結婚したら永遠に住む限り家賃は無料にするとか、自治体によ

っては、子育てする年数15年か20年か30年すれば、宅地も建物も全て無償譲渡しますとかということを実にやらない限り、今の体制が変わらない限り、こんな議論、データを何ぼしたって、人口はふえません。

それから、企業誘致、これ難しいです。これも日本経済の動向の中で。ただ、気に入らないのは、ホワイトカラーの会社を選ぶなんてとんでもないです。製造業だろうが、ホワイトカラーだろうが、ブルーカラーだろうが、何でも来ていただいたらいいわけです。ただ、今の資本主義のシステムは賃金が上らないときに、やはりそれも問題です。製造業で、ブルーカラーで、賃金がホワイトカラーみたいに上がってみてください。幾らでも若者はホワイトカラーでなく、ブルーカラーの職場に行きますよ。わかっているでしょうそんなこと。何がホワイトカラーですか。大学生ばかりで、ブルーカラーで今の若者が働いていない、そんなばかなことないです。

今の産業構造上、1次産業から2次産業、2次産業から3次産業に移るのは仕方ないです。だけど、ホワイトカラーの職場をふやすなどという絵に描いた餅のような議論はやめていただきたい、はっきり言って。備前市内の産業構造を見てください。やはり製造業中心ではないですか。ですから、賃金が上がらないことを直接議論できませんが、それをカバーするのは何かといえば、やはり福祉です。子育てや教育を完全無料化してみてください。どんどん市外から、宅地は瀬戸内市や和気町に設けるけれども、こっちに帰ってきますということになります。

やはりいかに政策が不十分であったかということも、もう少し本気でやってください。そうしないと、分析ばかりして、それを打開する政策がないのであれば、幾らつくっても同じです。私24年議員をしていますが、一貫してそこがないです。観光客のために1億円使うけど、1,000万円の金が防護柵に使えないわけでしょう。その方向転換さえできていない現状です。それじゃあ見捨てて和気町に行ったり、瀬戸内市に行きます。宅地が欲しければ瀬戸内市、防護柵が欲しければ和気町のほうにかわっていきますよ。極端な例ですけど。

もう少し表現も気をつけていただいて、いかに宅地政策から福祉政策、教育政策が不十分ということを徹底的に書いてください。それを打開するしかないという結論を出したら、議論する必要はないです、あとは具体化だけだと思いますから。要望しておきます。くだらない文章をたくさん書いても意味がないです。何をやるかを書くことが大事です。

以上です。要望しておきます。

○田原委員長 ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、ほかに報告事項はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら報告事項を終わります。

\*\*\*\*\* 所管事務調査 \*\*\*\*\*

所管事務調査に入りますが、先ほど申し上げたように、改めて近々に閉会中に審査をしたいと思いますが、会期中せつかくの機会ですので、ぜひということがありましたら。

資料の出ている鹿久居島の件の説明をお願いしたいということです。

○平田まち整備課長 鹿久居島環境公園化構想について御説明させていただきます。

先日の一般質問の市長答弁の中で出てきたと思いますが、この構想は、平成14年合併前の旧日生町において策定をされた鹿久居島全島環境公園化構想をもとに現状を踏まえて加筆したものです。去る4月16日に架橋が開通したわけですが、今後さまざまな架橋効果が期待される所です。そうした状況の中で、市ではこの鹿久居島を豊かな自然を生かした環境公園の島と位置づけ、さらなる架橋効果の増進を図っていきたいと考えている所です。

この構想では、島の豊かな自然環境を活用し、海、森林の生態系に親しんでいただくといったようなこと、それからまほろばによる古代生活の体験、アマモの再生、太陽光や水素ガスなど自然エネルギーの研究と活用など、さまざまな面から自然環境の保護と活用及び体験が可能な環境公園を目指したいと考え、町時代の構想に手を加えたものです。

お配りしている資料の1枚目の図面がその加筆をしたものです。

2枚目以降は、平成14年当時の原案をそのまま参考として添付させていただいています。

それから、加筆修正した図面についても、14年当時のものがそのままになっている部分もかなりあります。時間の経過により現状にそぐわない面、いろいろな経緯の中で実施が困難なものもあるかもしれません。今後実施へ向け、この内容をさらに精査し、適時見直していきたいと考えていますので、お配りしている図面はイメージということで捉えていただきたいと思います。

今後この構想に基づき、具体的にさまざまな整備を進めていくこととなると考えている所です。

○掛谷委員 全体の計画、もう11年、13年前ですか、相当手直しも要ると思います。そういう意味でしっかりとこの施策を練り直し、新たなものをつくっていくということでしょうか。どのようなスケジュールになって今後進んでいくのでしょうか。そのあたりが見えないので、一つずつについてはもう言いませんが、どういう工程を踏んで、いつごろまでに計画を見直していくわけですか、それを教えてください。

○平田まち整備課長 本当に初期の構想段階のため、具体的な部分は全てこれからです。スケジュール等もこれからということになります。

○田原委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、本日の総務産業委員会は閉会といたします。

御苦労さまでした。

午後4時33分 閉会